

## 令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州 ACE(エース)プロジェクトの推進事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人サキベジ推進協議会 長野県長野市北条町 24-4
事業区分	(2)保健、医療、福祉の充実
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	3,293,634 円 (うち支援金 : 2,622,000 円)

### 事業内容

長野県が重点的に推進するテーマのうちの一つ健康づくり県民運動「信州 ACE(エース)プロジェクトの推進」に関して、生活習慣病予防啓発に加えて具体的な実践方法を提示。また、地域の皆様が健康で長生きできるようにするために、ライフステージ(年齢)に合わせた健康づくりの必要性と具体的方法を提示するために次の事業内容を実施した。

1. オンライン「健康経営<実践>セミナー」6・7・8月3回延べ125名参加⇒希望事業所9所に体組成計貸出
2. LINEで参加!「フレイル予防学習会」7~12月7回延べ103名参加

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

1. 健康経営<実践>セミナー  
実際に健康づくりに取組んで数値改善事例等を提示したことにより、「健康づくりに取組むと改善できること」を多くの方が理解。さらに、サキベジの具体的実践方法の提示により簡単に取組めること、そして継続するには一緒に取組む仲間が必要であることが伝えることができた。
2. フレイル予防学習会  
学習会をオンラインに変更しても各回7名~29名、延べ103名の参加者がいたことから、実際に話を聞き、一緒に運動する機会が必要とされていたことがわかる。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。  
健康経営の具体的実践方法を提示することが県民の健康づくり意識向上につながると確信が持てたので、事例紹介を多く含む講座を継続的に開催していく。  
フレイル予防に関しては、with コロナの時代だからこそ必要な活動であるため、LINEを活用するなど工夫して一人でも多くの方に伝える取り組みを継続していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた  
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【オンライン「健康経営<実践>セミナー」】

### 【目標・ねらい】

- ①健康経営導入の必要性と導入メリットを伝える
- ②フレイル予防の必要性について理解を深める
- ③健康づくりの実践へと導く

### ※自己評価【B】

【理由】  
コロナの感染拡大防止のため、講座をオンライン開催に変更したところ、企業関係者は移動時間が省けることもあり参加者が多かった。フレイル予防学習会に関しては、リアル開催できたとしても変わらない参加人数を集めることができたため。

## 令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	こどもカフェでのスポーツ・野外活動および遊び活動の実践事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 信州親子塾 長野市大字東和田714番地8 光ビル2F
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実に関する事業 (3) 教育、文化・スポーツの振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	466,929円 (うち支援金: 373,000円)

### 事業内容

- 1 スポーツや遊びによる活動の充実  
令和2年6月1日から令和3年3月13日の間の毎月第3土曜日の午後に開催。プラレール遊び、ボール遊び、水遊び、工作、調理活動など。
- 2 野外活動の充実  
身近の自然の中で自然に親しむ活動の充実。山菜取り、海での宿泊合宿、川遊び、野尻湖カヌー体験など。
- 3 子育て相談  
こどもカフェに参加した保護者からの子育て相談の実施。



### 【目標・ねらい】

- ① 幼児も障がいがある子どもも楽しめるこどもカフェの実現
- ③ HSC および不登校の子どもたちに対する理解の推進
- ④ より細かい相談支援の実施

### 事業効果

- 1 コロナ休校以降、学校へ行かない子どもたちの受け入れが増加。学校以外の居場所、学びの場としての存在感が増してきた。
- 2 子育てに悩む保護者の相談を実施することで、子育てに対する適切なアドバイスと支援を行うことができた。
- 3 保護者や地域の方たちと交流を行うことを通してHSC (ハイリー・センシティブ・チャイルド) や不登校に対する理解を深めることができた。

### ※自己評価【 A 】

#### 【理由】

- ① コロナ禍にあっても第3土曜日に7回の定例開催。  
参加した子どもたちの数は延べで30名。参加した保護者や地域の方たちは延べで11名。
- ② 野外活動の充実。  
海合宿の参加者は子ども5名、若者3名、保護者や地域の方たち5名。
- ③ 長野市子ども・子育てフェスティバルに「信州こども食堂」ブースに協力参加2年目。  
来場者300名以上。

### 今後の取り組み

令和3年度は、身近な自然の中での体験活動や調理活動を通し「ふるさとを大切に作る心を育む」活動にも取り組んでいきたい。内容は遊び活動(プラレールなど)や運動(バドミントン、卓球、サッカーなど)、調理活動。また保護者向けの子育て相談も実施していく。

### 令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	これからの学びを考え語り合う会
事業主体 (連絡先)	子ども達と未来を考える会 代表 竹内淳子
事業区分	保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	495,125 円 (うち支援金 : 396,000 円)

#### 事業内容

映画「Most Likely To Succeed」の上映会（オンライン配信有り）と「小布施のこれからの学び」を考えるワークショップ（講師を招いて講演有り）を3回開催

第1回 自分の学びに立ち返る

講師 竹村詠美さん

参加者 28名

第2回 小布施の「学び」の今を知る

講師 深島 孝仁さん

参加者 32名

第3回 小布施の「学び」のこれからのを考える

講師 竹内 延彦さん（

参加者 36名



【ワークショップの様子】

#### 【目標・ねらい】

- ① 身近な学びの場をつくること
- ② 多様な学び方、生き方を受け入れる意識の醸成

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・映画のテーマになっているこれからの時代に必要な学び「体験探究学習」を参考にし、各講師にテーマごとに講演をいただき、参加者の交流対話を通じて「学び」を考える場になった。
- ・様々な問題を「学ぶ」場をつくりそのために自分が何をするか、何ができるかを日常の暮らしの中で実践していく取り組みが提案された。(月一回社会問題を取り上げた映画を題材に視聴し語り合う場)

#### ※自己評価【 A 】

##### 【理由】

コロナ禍ではあったが多くの方が参加してくれた。地域での学びについて、広く語り合える新しい取り組みだと参加者から高評価を頂いた。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

WSのまとめから、様々な問題を「学ぶ」場をつくりそのために自分が何をするか、何ができるかを日常の暮らしの中で実践していく取り組みが提案された。

月一回社会問題を取り上げた映画を題材に視聴し語り合う場を開催し、異年齢の地域住民が交流して学びあう機会をつくっていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ながの子ども・子育てフェスティバル事業
事業主体 (連絡先)	ながの子ども・子育てフェスティバル実行委員会 (長野市こども未来部こども政策課 026-224-6796)
事業区分	保健、医療、福祉の充実
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,920,006 円 (うち支援金 : 3,420,000 円)

#### 事業内容

ながの子ども・子育てフェスティバルの開催

- ・開催日 令和2年9月22日(火・祝)
- ・場所 長野市役所桜スクエア・第一庁舎・長野市芸術館
- ・主催 ながの子ども・子育てフェスティバル実行委員会
- ・内容 NPO 法人等の活動紹介  
子育て施策 PR・行政コーナー  
子ども向け企画  
専門家による相談コーナー  
令和元年東日本台風から学ぶ防災コーナー など



【フェスティバル様子】

#### 【目標・ねらい】

- ① 保護者への子育て支援団体の認知度向上と各団体の横の繋がりを高める
- ② 参加団体の範囲を拡大し、さらに広域でのネットワークの形成
- ③ 令和元年東日本台風からの復旧・復興に向けての気運の高まり

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・子育てを支援する38団体が参加し、活動紹介、ステージ発表、相談などを行った。  
約2,500人が来場し、多くの保護者に子育て情報等を周知することができ、子育てに関する様々な相談・支援を求める保護者に対し、支援のきっかけをつくることができた。
- ・イベント開催後に関係団体の活動紹介をテレビ、ラジオ、子育て情報雑誌で行い、子育て世代を含む幅広い世代にも、地域における子育て支援の取組みを周知することができた。
- ・昨年度からの参加団体も多く、さらに団体間の横の繋がりを深めることができた。「今後の自分たちの活動の参考になった」、「普段交流できない団体と交流できた」という声があった。
- ・参加団体を長野広域市町村に拡大したことで、広域での一帯的な保護者の理解や支援のきっかけづくりとなった。
- ・防災コーナーでは、昨年の東日本台風災害時に支援活動をおこなった団体が参加し、来場した親子が災害・防災について考える機会になった。また被災した親子には、軽食などを用意し楽しく過ごしていただいた。

#### ※自己評価【 A 】

#### 【理由】

- ・参加団体同士の横のつながりができ、各団体の次の活動につなげられるなどの声があり活動の活性化につながった。
- ・コロナ禍でイベントが少なくなっている中、子どもたちが楽しい時間を過ごすことができた。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・安心して産み育てやすい地域の実現を目指し継続してイベントを開催できるよう、自主財源の確保方を検討する。
- ・関係者同士の横の繋がりがさらに密になるように、コロナ禍でも開催できるオンライン交流会等を検討する。
- ※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた  
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

## 令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「心ほぐし、体ほぐし」家庭相談支援事業
事業主体 (連絡先)	子どもの問題を考える会長野
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実
事業タイプ	ソフト
総事業費	634,467円 (うち支援金: 507,000円)

### 事業内容

子育ての悩みをはじめ青年の引きこもり長期化と親の高齢化(8050)問題など、家族の悩みをなかなか周囲に相談できず孤立しがちなお母さん達のために、身近なところで気軽に話せて相談できる場を設けたり、また平成19年の台風被災地域の不安やストレスを抱えている子育て世代や地域の人達にも役立ててもらえる心身ケアの手法を紹介する講座でサポートを実践する。

・子育ての問題を取り上げた映画上映、心身の安定を図る自律訓練法講習、相談・話し合いの場を全3回実施。

令和2年10月18日 長野市勤労者女性会館しなのき、令和3年1月17日 長野市生涯学習センター、3月7日 長野市ふれあい福祉センター

### 事業効果

発達障害などを取り上げた映画上映、自律訓練法講座、相談の場を合わせた形で、支援金により開催を広くお知らせし、無料で開催できて、子育て世代、当事者、地域の方、子育て支援者など、様々な立場の方に参加してもらえた。

- ① 映画上映を取り入れ、参加しやすい構成で、子育ての問題を知るのにはいい映画だと好評だった。
- ② 自律訓練法講座で心身安定の手法を紹介し体験してもらうことで効果を実感してもらえた。
- ③ 子育てのこと、仕事上で子供への対応、自分自身のことなど参加者の質問に対して講師のアドバイスや、体験者の母親の話が参考になったと好評だった。

### 今後の取り組み

コロナ禍で、広報活動が広げられない中、学校や子育て支援機関等を通してチラシを多数配布していただいたり、台風被災地域にも出向いてチラシを配布させていただき、当日は様々な立場の方の参加を得ることができた。

参加者からは、上映会の開催手法や会の活動についても問い合わせをいただき、講師派遣や講座の共催などについても情報交換を行っており、協力関係を構築して子育て支援活動をさらに充実させていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【自律訓練法講座の様子】

### 【目標・ねらい】

- ① 子育て支援映画上映で子育ての問題の理解を広める。
- ② 心身の安定を図る自律訓練法の紹介・普及。
- ③ 相談・話し合いの場を設ける。

### ※自己評価【 A 】

#### 【理由】

- ・映画上映で子育ての問題の理解ができてよかったとのアンケート回答が目標よりも10%増加。
- ・自律訓練法の効果を実感し、続けて行いたいとのアンケート回答が目標よりも10%増加。
- ・次回の講座開催要望のアンケート回答を多数得た。